

虫に関する限り大差は認め難い。

なお、1958年と1960年の調査結果を一括して示すと第3表の通りである。

おわりに、日頃ご指導を頂いている京都大学河川生態研究グループの方々、ならびに奈良女子大学津田松苗教授に厚くお礼を申し上げる。

第3表 滝の急流部の昆虫相

(1958および1960・50cm×50cm・No…個体数・W…現存量)

種名	3-VIII-'58		2-VIII-'60	
	No	W	No	W
トビケラ目		mg		mg
<i>Rhyacophila niwae</i> ニワナガレトビケラ	1	20	3	60
<i>Hydropsyche</i> sp. シマトビケラ属	5	60	3	15
カゲロウ目				
<i>Epeorus curvatulus</i> ユミモンヒラタカゲロウ	4	50	—	—
<i>Baëtiella</i> sp. フタバコカゲロウ属	6	10	3	3
カワゲラ目				
<i>Nemoura</i> (<i>Nemoura</i>) sp. オナシカワゲラ属	5	15	—	—
<i>Nemoura</i> (<i>Protonemoura</i>) sp. オナシカワゲラ属	6	15	3	15
双翅目				
<i>Phylorus longirostris</i> ヒメアマミカ	24	40	27	60
<i>Simulium</i> sp. ブユ属	77	210	69	180
合計	128	420	108	333

30cm×30cmの方形区2カ所の平均値を50cm×50cmあたりに換算した。

文 献

- (1) 口分田政博：採と飼、15, 340—341 (1953)
- (2) 森 為三：兵庫生物、2, 126—127 (1953)
- (3) 西村 登：日生態会誌、6, 156—159 (1957)
- (4) 西村 登：兵庫生物、3, 339—341 (1959)
- (5) 津田 松苗：名勝月ヶ瀬、152—154 (1957)

- (6) 津田松苗・中川明：日生態会誌、9, 134—136 (1956)
- (7) 上野 益三：上高地及び梓川水系の水棲動物、岩波書店 (1935)
- (8) 渡辺 仁治：陸水雑、19, 45—50 (1957)

畸形マダコについて

一 色 八 郎

この畸形マダコは昨年10月24日淡路江崎灯台附近で採集されたマダコの雌で体重は800grあり、左側は第Ⅲ腕が7本に分枝し他は正常である。右側は第Ⅰ腕10本、第Ⅱ腕12本、第Ⅲ腕5本にそれぞれ分枝して計38本足である。

原因については今のところ確証されていないが国立科学博物館長岡田要氏の話では現在までに報告されているこの種のもは日本においては最近相模湾、次いで清水、鳥羽と第四番目が採集されたもので非常に貴重なも

のである。成因は傷による再生ではなく生まれつきによるもので、腕が分枝する要素を持っていたと云われ、また一説には傷によつて再生されたとも考えられ、この場合はタコの足を切断すると1本の足が再生して来る事から1本の足に数ヶ所切断されない程度の傷を受けた場合、この様に分枝して来るのではないかと推定される。

以上二通りの説がある。なおこの畸形マダコが90日以上も生きていたことは、これまでに例のないことである。貴重な標本として保存している。